

研修カリキュラム（令和 7 年度）

事業者名 鹿児島障害者職業能力開発校

研修事業の名称 介護職員初任者研修

1 職務の理解（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第 1 節 多様なサービスの理解	3 時間	1 介護保険による居宅サービス 2 介護保険による施設サービス 3 介護保険外のサービス ※DVD 視聴により具体的に理解する
第 2 節 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	1 介護サービスを提供する現場の理解それぞれの仕事内容 2 介護サービスの提供に至るまでの流れ 3 介護過程とチームアプローチ、他職種との連携、保険外サービスを含めた地域社会資源の活用
合計	6	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第 1 節 人権と尊厳を支える介護	6 時間	1 人権と尊厳の保持、アドボカシー 2 ICF 3 QOL 4 ノーマライゼーション 5 虐待防止、身体拘束防止 身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、養護者支援 6 個人の権利を守る制度 個人情報保護法、成年後見制度
第 2 節 自立に向けた介護	3 時間	1 自立支援 自立・自律支援、残存能力の活用、意欲を高める支援、個別ケア 2 介護予防 介護予防の考え方
合計	9	

3 介護の基本（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	1 介護環境の特徴 訪問介護と施設介護 地域包括 2 介護の専門性 利用者主体の支援 自立支援 チームケア 3 介護にかかわる職種 多職種の理解 チームケアの役割分担
第2節 介護職の職業倫理	1時間	1 専門職の倫理の意義 介護の倫理（制度の理解）社会的責任 2 介護福祉士の倫理
第3節 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	1 介護における安全の確保 リスクとハザード 2 事故予防、安全対策 リスクマネジメント 情報共有 3 感染対策 原因と経路 感染に対する正しい知識
第4節 介護職の安全	1時間	1 介護職の心身の健康管理 ストレスマネジメント 腰痛予防 2 感染症の予防 感染症対策 ※手洗い方法の実際
合計	6	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（12時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 介護保険制度等	3時間	1 介護保険制度創設の背景および目的、動向 ケアマネジメント、地域包括ケアシステム 2 介護保険制度のしくみと基礎的理解 介護給付のしくみと種類、介護認定の手順 3 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 財政負担、サービス事業者の指定
第2節 医療との連携とリハビリテーション	3時間	1 医療行為と介護 2 訪問介護 3 施設における看護と介護の役割、連携
	3時間	4 リハビリテーションの理念と他職種連携
第3節 障害者福祉制度とその他の制度	3時間	1 障害者福祉制度の概念、障害の概念、ICF 2 障害者福祉制度の仕組みの基礎的理解、申請、支給 3 個人の人権を守る制度の概要 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活支援事業
合計	12	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 介護におけるコミュニケーション	3時間	1 コミュニケーションの意義、目的、役割 相手のコミュニケーション能力に対する理解、配慮 傾聴、共感 2 コミュニケーションの技法 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション 3 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 利用者の思い、共感、家族へのいたわり 信頼関係 4 利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際 視力・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 認知症に応じたコミュニケーション技術
第2節 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	1 記録における情報の共有化 介護における記録の意義・目的 個別援助計画、ヒヤリハット報告書、5 W1H 2 報告・連絡・相談 各留意点 3 コミュニケーションを促す環境 会議、情報共有、ケアカンファレンスの重要性
合計	6	
6 老化の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第1節 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	1 老化に伴うこころとからだの変化と日常 防衛反応 喪失体験 2 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 各機能低下と日常生活への影響
第2節 高齢者と健康	3時間	1 高齢者の疾病、疾患の特徴 骨折、筋力低下 2 高齢者の疾病と日常生活上の留意点 循環器 うつ 誤嚥性肺炎 感染症
合計	6	

7 認知症の理解（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第 1 節 認知症を取り巻く環境	1 時間	1 認知症ケアの理念 パーソンセンタードケア 2 認知症ケアの視点
第 2 節 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	1 認知症とは 2 認知症の診断 もの忘れとの違い 3 認知症の原因疾患とその病態 4 認知症の治療と予防
第 3 節 認知症にともなうところとからだの変化と日常生活	2 時間	1 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 中核症状 行動・心理症状 不適切ケア 2 利用者への対応 利用者への支援方法
第 4 節 家族への支援	1 時間	1 家族への支援 受容過程での援助 2 認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア
合計	6	
8 障害の理解（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
第 1 節 障害の基礎的理解	2 時間	1 障害の概念と ICF ICF の分類と医学的分類 ICF の考え方 2 障害者福祉の基本的理念 ノーマライゼーションの概念
第 2 節 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動と特徴 かかわり支援等の基礎知識	3 時間	1 身体障害（視覚、聴覚、音声言語、肢体不自由、内部障害） 2 知的障害 3 精神障害（統合失調症、気分障害、依存症、高次脳機能障害） 4 発達障害 5 難病 各障害の基礎知識とかかわり支援
第 3 節 家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	1 家族の理解と障害の受容支援 2 介護負担の軽減
合計	6	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（93時間）			
基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	第1節 介護の基本的な考え方	3時間	1 理論に基づいた介護（ICFに基づく生活支援） 2 法的根拠に基づく介護
	第2節 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	1 学習と記憶に関する基礎知識 2 感情と意欲に関する基礎知識 3 自己概念と生きがい 4 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 5 こころの持ち方やからだの状態が与える影響
生活支援技術の講義・演習	第3節 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6時間	1 生命の維持・恒常のしくみ 2 人体各部の名称と動きに関する基礎知識 3 骨・関節・筋に関する基礎知識 4 中枢神経と体性神経に関する基礎知識 5 自律神経と内部機関に関する基礎知識
	第4節 生活と家事	3時間	1 生活と家事の理解 2 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 3 家事援助の技法
	追加 ベッドメイキングの基礎知識と技術法	9時間	ベッドメイキングの基礎知識と技術法 ※ベッドメイキング演習・シーツ交換の演習
	第5節 快適な居住環境整備と介護	3時間	1 快適な居住環境に関する基礎知識 2 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 バリアフリー，住宅改修，福祉用具貸与
	第6節 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	9時間	1 整容に関する基礎知識 2 整容の支援技術 ※洗面，爪の手入れ，衣服の着脱演習（和式・前開き・トレーナー）
	第7節 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	12時間	1 移動・移乗に関する基礎知識 2 移動，移乗に関する福祉用具とその活用方法 3 利用者・介助者にとって負担の少ない移動，移乗の支援 4 移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 5 移動と社会参加の留意点と支援 ※体位変換，車椅子移乗・移動，歩行介助，グループワーク
	第8節 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	1 食事に関する基礎知識 2 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 3 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 4 食事と社会参加の留意点と支援 ※食事介助の実際

	第 9 節 入浴と清潔保持に関連した ところとからだのしくみ自 立に向けた介護	9 時間	1 入浴・清潔保持に関連する基礎知識 2 入浴・清潔保持に関連する用具活用方法 3 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 ※多機能浴室で実技演習(水なし)、DVD 視聴、清拭演習、手浴、足浴
	第 10 節 排泄に関連したところと からだのしくみと自立向け た介護	9 時間	1 排泄に関する基礎知識 2 排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 3 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 ※トイレ支援の介助演習・便座、尿器での介助演習、おむつ交換演習
	第 11 節 睡眠に関連したところと からだのしくみと自立向け た介護	3 時間	1 睡眠に関する基礎知識 2 睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 3 快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法
	第 12 節 死にゆく人に関連したこ ろとからだのしくみと終末 期介護	3 時間	1 終末期に関する基礎知識 2 生から死への過程 3 「死」に向き合うところの理解 4 苦痛の少ない死の支援 ※自分らしい終末期はどうありたいか…DVD 視聴と意見交換
生活 支援 技術 演習	第 13 節 介護過程の基礎的理解	3 時間	1 介護過程の目的・意義・展開 2 介護過程のチームアプローチ ※事例の例示から分析方法を学ぶ
	第 14 節 総合生活支援技術演習	1 2 時間	1 演習を行うにあたって 2 事例をあげ二人組で整容の方法・移動の介助の場面で日常生活支援の 演習を行う。実演の根拠を話し合い、意見交換する。 ※2 例の具体的事例で演習を行い実習評価とする
合計		9 3	
1 0 振り返り（6 時間）			
項目名		時間数	講義内容及び演習の実施方法
振り返り		6 時間	1 ふり返り（研修を通じて学んだこと） 2 就業への備えと研修終了に後における継続的研修
合計		6	
全カリキュラム合計時間		1 5 6 時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。